

【I'm possible について】

私たちI'm possibleはバラスポーツの普及を図り、共生社会の大切さへの理解を深めるために作られた団体です。メンバーは中学生と高校生で、生徒を中心に活動している有志団体です。

I'm possibleの起源

I'm possibleの発足は2021年9月で、岐阜県に本社を置く株式会社松永製作所から数台の車いすバスケットボール用車椅子を提供していただいたことから始まりました。当初の活動は、学校においてある車椅子の空気入れのみでしたが、次第に、その車椅子を使って校内に車いすバスケットボールなどのバラスポーツの知識や楽しみを広げる他、自らがバラスポーツの現場での運営や設営などの、ボランティア活動も行うようになっていきました。

“I'm possible” 名前の由来

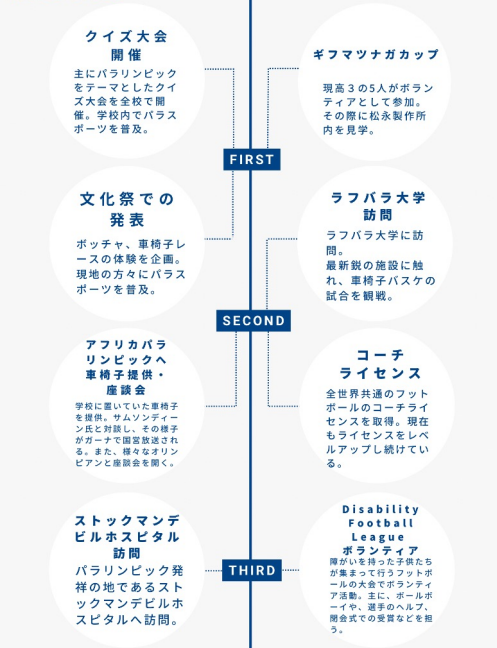
身体障がい者は時として、障がいを理由としてスポーツなどのアクティビティが「impossible/不可能」になってしまいます。しかしそこに「魔法のアポストロフィー」をつけることによって「I'm possible / 可能」にすることができます。国際パラリンピック協会のI'm possibleを参考として、私たち自身がこの「魔法のアポストロフィー」のような存在になれるようにという意味でこの名前がつけられました。

主な活動

私たちはイギリスと日本を拠点として活動しています。バラスポーツ大会の設営・運営などのボランティア活動、バラスポーツの普及活動、学校の車椅子のメンテナンス、バラスポーツ関連の施設訪問を行っています。

【活動内容・実績】

I'M POSSIBLE HISTORY



〈Sussex FA Disability Football League〉

2023年5月にSussex FAによって開催されたDisability Football Leagueにボランティアとして参加しました。この大会は軽度の障害を持った13歳以下と16歳以下の子供のための試合で、私たちの仕事は主に、試合進行のサポート、記念品授与でした。本来は運営側のボランティアのみをする予定でしたが、途中から突然、私たちI'm possibleチームと、試合に参加していたサッカーチームとの練習試合が始まり、みんなで混ざって一緒にサッカーを楽しむことができました。やはりスポーツをすることで障がい者と健常者という区分がなくなり、お互いに偏見なく接することができると感じました。またこの経験での子どもたちの様子や、応援に来ていた保護者の様子を見て、日本との「サポートされる側の感情の差」というものを実感しました。

SUSSEX FA PARTNERSHIP

〈ギフマツナガカップ〉

2021年12月に株式会社松永製作所主催で開催された車いすバスケットボールの大会「ギフマツナガカップ」にボランティアとして参加しました。現在の高3生5人が現地に行き、会場設営、記念品授与、選手のスケジュール管理などの仕事をしました。また大会の前日には松永製作所の本社を訪問し、実際に車椅子を作っている工場や、出荷の様子を見学しました。これが私たちにとって初めての車椅子の公式大会でしたが、一流のバラスポーツ選手の方たちとの関わりから、スポーツに対する向き合い方、障がいとの向き合い方、ポジティブな思考法など、たくさんことを学ぶ良い機会でした。この経験から、私たちは、何においても、事柄に対する「受け止め方」がとても重要だと学びました。



【今後の展望】

私たちの考えを日本に広めていくために：

イギリスでより多くの経験を積む

- ・ボランティアの参加
- ・選手、運営スタッフなどの人との関わり

日本でボランティアに参加

- ・学んだことを活かす機会
- ・様々な人との交流を通して、考えを日本社会に広める

広報活動

- ・自分たちの活動を広める活動を始める。(SNSやウェブサイト)これによってより多くの幅広い人に広めることができる。

